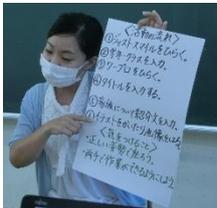


《特別支援学級》

自立活動

授業者N・M先生

1. 授業名： 「 家族の紹介カードをつくろう 」
2. 本時の目標： タブレットを使って家族についての紹介文の入力やイラストを挿入して紹介カードをつくる。
3. 自立活動の区分、項目と指導内容について
 - 区分：身体の動き 項目：作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。
 - 区分：コミュニケーション 項目：言語の受容と表出に関すること。

<p>授業者は今年初めて特別支援教室の担任を受け持つ、児童のRさんは肢体不自由で体の動きがすべてコントロールが厳しい症状がある。5月に学校が始まりまだ2ヶ月にしかならない授業者とRさんの二人のステージである。授業者に焦りはないが緊張感が見える。授業成功へ導きたい教師の思いがある。</p> 	<p>めあてを確認し、学習の流れを確認する。授業者の問いかけにRさんも応じる。授業者はRさんの表情を見つめながら穏やかな表情でゆっくりと語りかける。時間がゆったりと進む。</p>  
---	--

	<p>ぎこちない作業でアプリを立ち上げ、家族の名前とタイトルを打ち込む、Rさんの一生懸命な眼と授業者の優しいまなざしが対話する。授業者は私たちには理解できないRさんの言葉や表情から「困り感」を診取る。</p>	<p>⑥イラストをかたまり画像をはる <気をつけること> ・正しい姿勢で座ろう。 ・両手で作業ができるようにしよう。</p>
	<p>プログラム、カール、ホルダー、変換エンター、貼り付け、PC用語が飛び交う。Rさんが必死にカールを動かしエンターを押す。家族の名前の打ち込みの後はイラストをペンで描き始めた。左写真、Rさんの真剣なまなざしを支える授業者の笑顔ステキである。右写真、具体的な作業には「両手を使って打ち込む」というめあてもあった。両手を必死にコントロールしてエンターを押す。Rさんにとってはまさに手に汗を握る作業である。</p>	

<p>ペンを使ってイラストを描く。Rさんの指先に参観者の目が集中する。</p> <p>私の脳裏に勝手に浮かんだ言葉を単純に記しておきます。穏やかな授業風景、やわらかい言葉、笑顔と意思の伝達、言葉が理解できる教師、伝えようとする両者、分かろうとする両者。</p>	 	<p>授業終了後たいへんご満悦な表情のRさんでした。「あ〜つかれた！」</p> 
--	--	---

N・M先生お疲れさまでした。二人の息遣いがぴったりの授業でした。二人の意思疎通の瞬間がとても不思議な魔法のように私には見えました。私は常々、この学校にはRさんのおかげで育つ子供がたくさんいると言っていますが。我々教師もその一人です。Rさんから素直に学びましょう。

本日は「素敵に癒される授業」でしたありがとうございます。

(国頭学びの会ゆい)

《算数通級教室》 授業者：K・M先生

1. 授業名： 「 チャレンジ算数 」

2. 本時の目標

- 長さを表す単位kmを理解しよう。
- mをkmで表すにはどうすればいいのか考えよう。

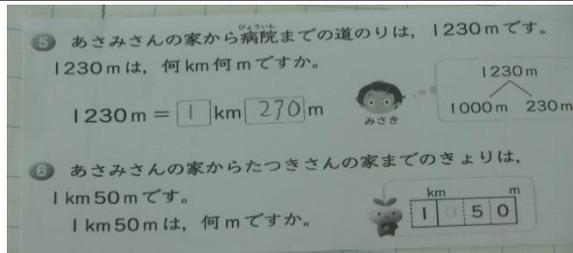
3. 自立活動の区分、項目と指導内容

- 区分：人間関係の形成 項目：自己の理解と行動の調整
- 区分：コミュニケーション 項目：状況に応じたコミュニケーション



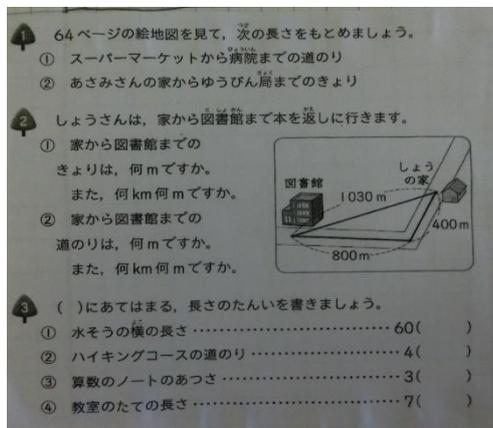
授業者は、本年度より教壇に立つ大学卒業したてである。初めての教壇がたまたま本校における算数科の通級教室における学習指導の担当であり、算数を苦手とする個性の子ども達との授業である。

通常教室における授業のテンポやスピードに困り感を抱く子ども達。細かな支援や教具、教材が子ども達の理解のアイテムになる。授業の本題に入る前に、ちょっとトレーニング、S-R理論に基づいたテキストを電子黒板に反映させ、子ども達の集中力や、脳の活性化を図る。それでも、仲間についていけない子がいる。これが通級教室の現実である。ここから自分の教授経験が積み上げられていく、「これまでの私」だけではついていけない、「これからの私」を作り上げるための多くの経験と学びを獲得し、自己実現に向かってほしい。



昨日の学習を踏まえた基本問題である。長さの単位換算、単位換算は1単位量の概念が大切である。長さ重さ、広さ、体積、時刻など、抽象的な思考の操作だけで理解することは困難な課題である。小学校で単位換算を扱うときは特に丁寧にやっていきたいものである。日常に使う機会の少ない学習は、難しいのである

〔教科書の応用問題に入る〕



写真の二人、授業者に配られたワークシートを見て、すぐに前日の学習ノートと教科書を開いた。自分で解決に向かった瞬間でもある。何度も読み返し、何度も間違い、先生に問う。文章を読む力。題意を抑える力。基本的な長さの単位の理解。読めない子もいる、読めるが題意をとらえきれない子もいる、読むこともしない子もいる。言葉でしか理解しない子もいる。だからこの教室が大切！



同じ弱さにも差がある仲間を支える仲間、教師の言葉より仲間の言葉で理解する。仲間は仲間の分かる言葉で話してくれる。5人しかいない教室でもしっかり支え合うのが本校のめざす授業像である。両者の関係が築かれ、いつか必ず恩恵が回ってくる時が来る。



放心状態に陥る子がいた参観に来ていた去年の担任にあずけてみた。さすがである。エンピツを握り問題に向き始めた。しかもどうも分かっている様子である。去年1年間の担任と教えることとの関係が両者をつなげる言葉を生みだし二人だけの言葉でつながっていると感じました。

K・M先生お疲れさまでした。「通級教室」チャンスだと思って学びましょう。 (国頭学びの会ゆい)